

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592701

研究課題名（和文） 知識基盤社会における看護師の学術情報利用促進モデルの構築

研究課題名（英文） The scholarly information use model for nurses
in the knowledge-based society.

研究代表者

富田 美加（TOMITA MIKA）

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：30285051

研究成果の概要（和文）：知識基盤社会において、看護師は医療消費者の健康に貢献するため、より質の高い学術情報から知識を得て臨床看護を実践する必要がある。しかし適切な情報源を常に把握し、かつ多岐に亘る情報要求を満たす検索を行い、学術情報を入手することは難しい。そこで、看護の高度化に資する学術情報のマッピングによって、看護師の学術情報探索過程の効率化、ひいては看護活動の高度化を図る方法について検討した。

研究成果の概要（英文）：Nurses are required to obtain highly sophisticated scholarly information for contributing to the health of medical consumers. However, it is often difficult to be constantly in the possession of appropriate information resources, conduct searches to satisfy various information needs, and obtain useful information. In this study, a resource map was prepared to locate such information that would contribute to the advances in nursing. By using this resource map, nurses may possibly acquire improved skills to search academic information; ultimately, this would further advance nursing activities in the future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護師，学術情報，情報検索

1. 研究開始当初の背景

知識基盤社会において、看護師はその基礎教育課程の段階から学術情報利用に関する知識と技術を備え、生涯に亘ってそれらを活用していくことが重要である。

近年、情報科学技術は急速に発展しているため、看護師は情報科学に関する特別に高度な知識や技術を持たなくても、その恩恵にあ

ずかることが可能となってきた。

しかしながら医療現場ではテクノロジー先行の感もあり、所属施設や個々の教育背景の差異など実際の情報利用環境においては、さまざまな因子が作用し合い、情報科学技術が有効に臨床実践の支えとなっていないのが現状である。

そこで、利用主体である看護師の情報ニー

ズをはじめとする認識や情報探索行動、情報利用環境の特徴などを明らかにし、看護学における情報科学技術の積極的な応用をより促進していくことはこれからの看護学にとって重要な課題であると考えている。

この分野の先行研究としては、欧米における臨床看護師に焦点をあてた情報探索行動についての研究がある。

これらは図書館員の立場による研究が中心であり、研究対象も Nurse Practitioner であるため、得られている結果も医師に近似したものであり、わが国の看護師の実態についてはさらに独自の方法論が必要であるといえる。

一方、国内では図書館員の立場による利用者教育という観点に主眼が置かれているため、看護師の置かれている実態を把握するためには、より質的な分析が必要である。

つまり、本研究の先行研究や関連研究においては、臨床看護師の現状に即した情報利用環境モデルの構築に至るような研究という点では、看護学の立場でわが国の看護師の情報ニーズと情報探索行動に焦点を当てた研究はまだ緒についたばかりである。

2. 研究の目的

本研究では、臨床における看護師の情報利用環境を単にインフラとして整えるということではなく、看護師の情報ニーズの実態や情報探索行動における特徴について、看護師や看護学生の情報ニーズや情報探索行動、情報利用など情報行動をふまえた分析をめざしている。

また、実践の場である臨床と看護基礎教育課程とのリンケージの本質を明らかにすることを通じて、看護師の実践・研究・教育の活動を支援する「学術情報利用促進モデル」を構築することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

看護師及び看護学生の情報行動ならびに学術情報利用に関する文献を調査する。

(2) 学術情報の利用促進に資する方策の検討

①基礎教育課程における学術情報利用上の課題について、卒業研究相当科目の内容分析を行う。

②ある特定分野における学術情報について、マッピングを行う。

③②で明らかにしたマップをもとに、看護師の臨床実践に必要とされる事例の組織化について検証する。

(3) 上記に基づく『学術情報利用促進モデル』の構築

学術情報の利用促進因子ならびに『リソース・マップ』の概念的拡張過程から抽出された因子をもとに、学術情報利用促進モデルを構成する概念枠組みをモデル化する。

4. 研究成果

(1) 平成 21 年度

看護師は医療消費者の健康に貢献するため、より質の高い学術情報から知識を得て、evidence-based practice (EBP) を実践する必要がある。

しかし、適切な情報源を常に把握し、かつ多岐に亘る情報要求を満たす検索を行い、学術情報を入手することは難しい。

そこである特定分野における状況を明らかにするため、「若年女性の摂食障害」に関する質の高い学術情報を入手する過程を検証し、摂食障害領域における看護の高度化に資する学術情報のマッピングを試みた。

マッピングの過程では、摂食障害について、まず、シソーラス用語の階層関係 (図 1)、シソーラス用語と副標目の付与傾向 (表 1)、コア・ジャーナルと掲載論文数 (表 2) を検証した。

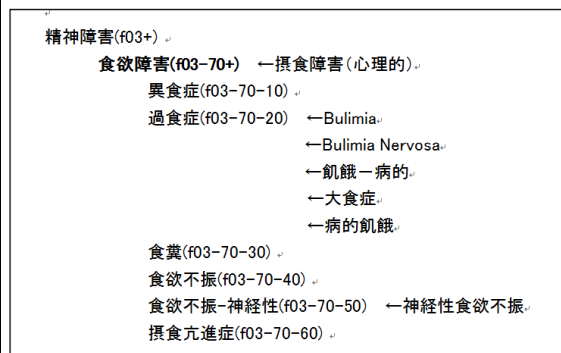


図 1. シソーラス用語の階層関係

表 1. シソーラス用語と副標目の付与傾向

シソーラス用語	副標目	副標目なし									
		病因	診断	合併症	予後	治療	精神療法	薬物療法	食事療法		
摂食障害	食欲障害	2	2	1	1	2	3	1	1		
	食欲不振-神経性	1	1	1	1	2	1	1			
	過食症	1	1	1	1	1	1	1			
	やせ	1	1	1	1	1	1	1			
治療法	小児期の哺乳障害と摂食障害	1	1	1	1	1	1	1			
	家族療法	2	1	1	1	1	1	1			
	行動療法	3	1	1	1	1	1	1			
	認知療法	2	1	1	1	1	1	1			
	短期精神療法	1	1	1	1	1	1	1			
	カウンセリング	1	1	1	1	1	1	1			
	食事指導	1	1	1	1	1	1	1			
年齢	精神療法過程	1	1	1	1	1	1	1			
	思春期	2	1	1	1	1	1	1			

表2. コア・ジャーナルと掲載論文数

発行年	1983-1987	1988-1992	1993-1997	1998-2002	2003-2007	2008	合計
心身医学	0	0	0	5	21	2	28
心療内科	0	0	0	16	7	2	25
精神科治療学	0	3	2	8	7	0	20
臨床精神医学	0	0	0	2	8	6	16
精神医学	1	0	1	0	8	0	10
精神分析研究	0	1	1	3	5	0	10

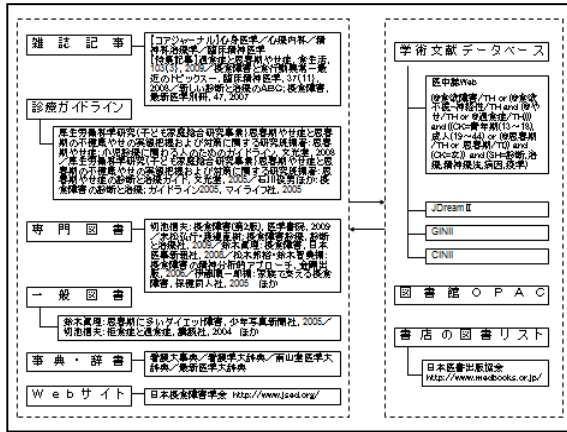


図2. 摂食障害に関する学術情報のリソース・マップ (2009年8月現在)

最終的にリソース・マップ(図2)として総括した。

このリソース・マップには、学術文献データベースから見出したコア・ジャーナル及び学術雑誌の特集記事、診療ガイドライン、専門図書や一般図書、汎用性の高い事典・辞書、及びWebサイトを示した。

さらに研究成果を記述した一次情報を探すための学術文献データベースである医中誌Webを、適切な検索式とともに示した。この医中誌Webにおける最適検索式は、次のとおりである。

まず「摂食障害」の概念に関する検索式は、式1のとおりとした。

(@食欲障害/TH or (@食欲不振-神経性/TH and (@やせ/TH or @過食症/TH))) (式1)

デフォルトではシソーラス用語の下位語を含んだ検索が行われるため、検索語の先頭に「@」をつけ下位語を含まない検索が行われるようにした。検索語の後にタグ「/TH」をつけ、シソーラス用語のフィールドを指定した検索が行われるようにした。

「若年女性」については、「若年」と「女性」にわけ、それぞれチェックタグを使用した。「若年女性」についての検索式は、式2のとおりとした。

((CK=青年期(13~18),成人(19~44)) and (CK=女)) (式2)

論文種類の検索式は、記事区分フィールドを使用し、式3に示すとおりとした。

(PT=解説,総説) (式3)

これらの検索式を使用した検索結果から適合文献を抽出し分析するにあたり、抄録付きの最近の文献のみを検索するための式4に示す検索式も使用した。

(AB=Y and DT=2004:2008) (式4)

式1から式4に示した検索式の論理積(式5)を求め、検索結果とした。この検索結果から抽出条件を満たす文献を抽出し、適合文献に付与されているシソーラス用語の特徴に着目して分析を行い、「摂食障害」に関する検索戦略を策定する。

(@食欲障害/TH or (@食欲不振-神経性/TH and (@やせ/TH or @過食症/TH))) and ((CK=青年期(13~18),成人(19~44)) and (CK=女)) and (PT=解説,総説) and (AB=Y and DT=2004:2008) (式5)

式5の検索式により15件の文献が検索され、論文タイトル及び抄録をもとに適合判定を行った結果、12件の適合文献が得られた。

適合文献に付与されていたシソーラス用語及び副標目に着目して特徴を分析した結果(表1)、「摂食障害」については「食欲障害」及び「食欲不振-神経性」がシソーラス用語として付与されているため、式1が適切であることがわかった。

しかし「若年女性」を検索するためには、チェックタグとシソーラス用語の併用が必要であることが明らかとなり、式2を式2'のとおり修正した。

((CK=青年期(13~18),成人(19~44) or (思春期/TH or 思春期/TI)) and (CK=女)) (式2')

「原因・診断・治療・疫学」については、副標目を使用することとし、検索式として式6を作成した。

(SH=診断,治療,精神療法,病因,疫学) (式6)

したがって、今回の検索主題に適する検索式は、式1、式2'及び式6の論理積を求める式7のとおりとなった。

(@食欲障害/TH or (@食欲不振-神経性/TH and (@やせ/TH or @過食症/TH))) and ((CK=青年期(13~18),成人(19~44) or (@思春期/TH or 思春期/TI)) and (CK=女)) and (SH=診断,治療,精神療法,病因,疫学) (式7)

このリソース・マップにより、看護師に必要な摂食障害に関する専門知識の所在を概観することが可能となった。

リソース・マップ上に学術文献データベース及び検索式を示しているため、基本的な学術情報の入手に留まらず、個々の情報要求を満たす学術情報の検索による入手が容易となり、EBPの実践における適用力の向上に結びつく。

すなわち、看護師の学術情報探索過程の効率化、ひいては看護活動の高度化を図る効果が期待される。

(2) 平成 22 年度

学術情報の利用促進因子について、基礎教育課程の学生について検討した。

基礎教育課程における学術情報利用上の課題については、看護大学生における学術情報の利用実態の一端を探るべく、卒業研究相当科目の論文の参考文献に関する調査を実施した。

3 年間分の看護研究論文集の 159 編を対象に、1 論文あたりの平均参考文献数についてみると、11.5 であった。

また参照元の形態別による参考文献数とその割合については、総参考文献数が 1,823、そのうち雑誌が 1,285 (70.5%)、図書が 477 (26.2%)、Web サイトが 61 (3.3%) であった。

参考文献の記載状況が示す意味としては、まずスタディスキルとしての学術情報探索能力を確認することができる。

特に卒業研究相当科目において最終的に提出された論文を対象にしていることから、ここに表れている種々の課題については、おそらくは初年次に端を発している。

そのまま学生は個々に苦労を重ねながら、日々の講義や演習、実習などに必要な学術情報を探索してきているのであろう様子をうかがい知ることができ、学術情報の利用促進因子として重要なものといえる。

(3) 平成 23 年度

平成 21 年度に作成した「摂食障害」に関する『リソース・マップ』について、概念的拡張を試みるため、事例を集約し体系化する方策について検討した。

この『リソース・マップ』の段階では、主に初学者の学術情報利用を支援するのに資すると考えるが、これを個別事例の探索に有用なツールとして発展させていく方法について検討した。

まず書誌データベースにより、摂食障害分野の看護における事例について書かれた文献を収集した。次に、それら個々の文献を質的に分析し、摂食障害分野の看護における事例を検索するために必要となる用語の体系化を検討した。

臨床研究のうち、特に事例研究では患者の個別性要因が大きいため、evidence-based medicine (EBM) としては精度が低いとされる。しかし、実際の看護実践場面では、個別性を考慮したうえで、なお事例研究へのニーズが高い。個別性があっても、少しでも眼の前の患者に適用できないかという観点で文献検索している。つまり、臨床では、必ずしもエビデンスレベルが高い文献だけが有用というわけではないという事実がある。

したがって、これら事例に関する学術情報に対して、いかに確実にアクセスできるかと

いう観点も、知識基盤社会における看護師の学術情報利用促進モデルの構築に際しては、重要な要素となってくる。

さらには、高度情報化の進展する臨床においても、電子カルテとのリンクといった点についても検討を加える必要がある。特に既存の用語体系との関連性を検証することによって、新たな応用可能性が期待される。

(4) 今後の展望

今後は『インディビジュアル・マップ』として、さらに『リソース・マップ』との関連性を検討し、臨床で実践活動を行う看護師に有用なツールとして総括する予定である。

またこれらの過程で得られた知見をもとに、現行の書誌データベースならびに基礎教育課程に付加すべき事項を整理していきたい。これには、看護師の生涯に亘るキャリア・パスやキャリア発達との関連を具体的に検討していく必要がある。

最終的には学術情報の利用促進因子ならびに『リソース・マップ』の概念的拡張過程から抽出された因子をもとに、学術情報利用促進モデルを構成する概念枠組みについて、モデル化を完成させていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

①富田美加, 岩澤まり子. 摂食障害領域の学術情報提供による看護の高度化支援. 日本健康医学会雑誌, 査読有, 第 19 巻, 第 1 号, 2010, 23-30

[学会発表] (計 1 件)

①富田美加, 水上昌文, 阿部慎司, 馬場健, 加納尚美, 小山哲夫. 医療系大学生における学術情報の利用実態と初年次教育のあり方. 日本高等教育学会第 13 回大会 (尼崎) 2010 年 5 月

[図書] (計 1 件)

①宮腰由紀子, 富田美加. 生活行動援助の観察/排泄. 小野寺綾子, 陣田泰子編. 「新看護観察のキーポイントシリーズ成人内科 I」. 中央法規出版 (東京). 2011, 121-137

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富田 美加 (TOMITA MIKA)

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授
研究者番号: 30285051